

前田遺跡 矢口遺跡

2020年3月

2020年3月

福崎町教育委員会

前田遺跡
矢口遺跡

2020年3月

福崎町教育委員会

あ い さ つ

平成27年度から高岡福田地区は場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施しています。高岡地区では、板坂区、長野区、神谷区で平成元年度には場整備事業に伴う埋蔵文化財調査を実施しており、多くの成果を得ることができました。

これら調査では、役人が使用していたと考えられるベルトの一部や中世の遺跡が見つかるなど、これまで知られていなかった歴史の一端が明らかになっています。

このたび、これらの調査結果をまとめ、報告書を刊行いたしました。地域の歴史を知る資料として、広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり地元関係者をはじめ多くの方々に、ご理解とご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

令和2年3月

福崎町教育委員会
教育長 高寄十郎

例 言

1. 本書は、平成元年度及び平成29年度に行った発掘調査報告書である。
2. 調査は事業主の依頼を受け、福崎町教育委員会を主体とし実施した。
3. 確認調査は国庫補助金を充て、本調査経費は事業主体者が負担し一部国庫補助金を充てた。
4. 本書に使用した方位は、基本的に磁北を示している。
5. 本書に掲載した図のうち、遺跡位置図は福崎町発行の都市計画図を編集したものである。
6. 本書の執筆、編集は梶、福永の協力を得て梶口、渡辺が行った。
7. 出土遺物の整理は梶、福永が行い、写真撮影は梶口、渡辺が行った。
8. 本報告に係る図面、写真、遺物等は福崎町教育委員会にて保管している。
9. 調査及び整理作業には、数多くの方々や機関にご指導、ご助言をいただいた。感謝申し上げる。

卷頭図版 1



空中写真（垂直）



空中写真（南西上空から）

卷頭図版 2



空中写真（南東上空から）



空中写真（北上空から）



空中写真（東上空から）



空中写真（西上空から）



全景（東から）



西半全景（東から）



出土遺物（磁器）



矢口遺跡巡方

本文目次

あいさつ・例言

巻頭図版

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 試掘確認調査の経過	1
第3節 本発掘調査の経過	3
第4節 整理作業の経過	4
第5節 周辺の環境	5

第2章 前田遺跡

第1節 調査の概要	6
第2節 遺構	6
第3節 出土遺物	10
第4節 小結	12

第3章 矢口遺跡

第1節 分布調査	13
第2節 確認調査	13
第3節 全面調査	16
第4節 出土遺物	16
第5節 小結	20

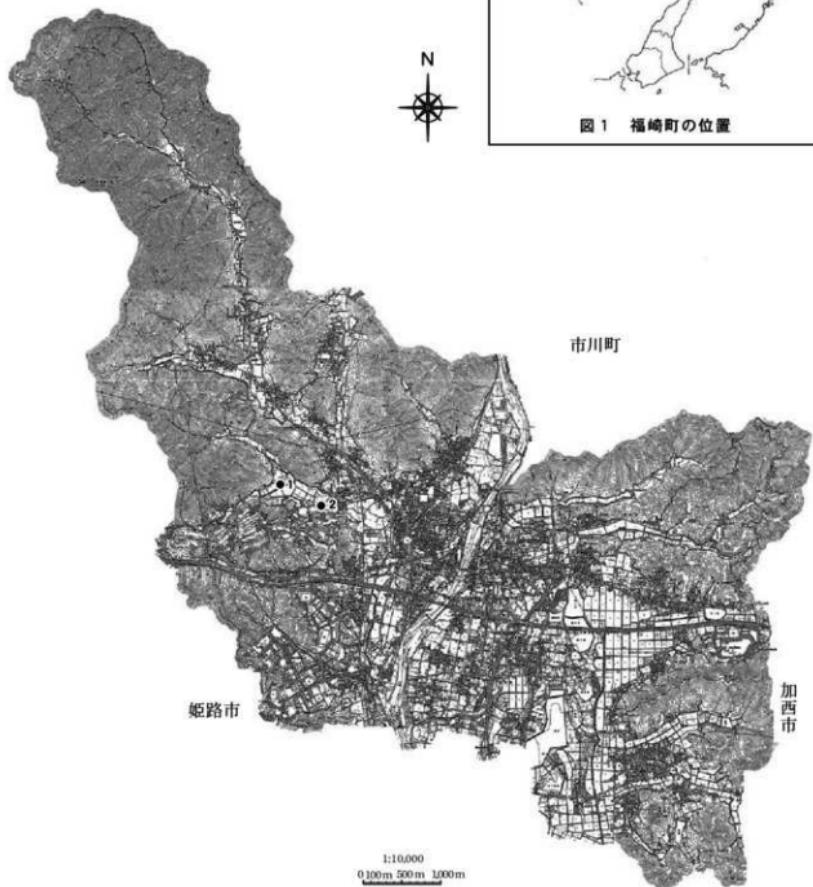


図2 調査位置図 1 矢口遺跡 2 前田遺跡



図1 福崎町の位置

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

福崎町では高岡福田地区においては場整備事業を計画している。事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である觀音堂遺跡・宮ノ前遺跡・前田遺跡・林谷遺跡・狐塚遺跡が存在する。それ以外の遺跡の存在も想定されたので、事業用地内の分布調査を実施した。その結果をもとに試掘確認調査を実施することとなった。社会教育課と農林振興課の間で調査方法や期間などについて隨時協議を行ってきた。平成27年度から分布調査を開始し、平成29年度に終了した。分布調査は、樋口 碧・渡辺 昇・梶

智美・玉田誠司が担当した。平行して平成28年度から試掘確認調査を行い平成29年度に終了した。前田遺跡の確認調査は平成28年度に実施した。その結果、台地上に遺構が広がっていることが確認され、南側斜面には五輪塔が散乱していた。遺跡の存在が確実になった。そのことから、ほ場整備事業に先立って本発掘調査を実施することになった。

第2節 試掘確認調査の経過

分布調査成果をもとに試掘確認調査を行った。平成28・29年度に5期に分けて調査を実施した。平成28年度は主に南工区を、平成29年度は北工区を対象とした。一部平成28年度に耕作の都合などで未調査となっていた地点や調査範囲を確定するための追加調査を、南工区についても平成29年度に実施した。調査で設定した坪は南工区で229か所、北工区で100か所になる。その中には諸事情や周辺の調査成果から調査していない坪も一部含まれる。平成28年9月19日から平成29年3月1日の実働17日間を費やすして実施した。稲作と麦作の都合からも3期に分けて実施し、前田遺跡周辺はその3期目に調査を行った。前田遺跡は坪114から坪122が該当する。その結果は福崎町埋蔵文化財調査報告15で報告しているが、尾根上の高い部分に位置する前田遺跡の西半で遺構が検出された。

層序は耕土、黄灰細砂、にぶい黄細砂、地山である浅黄細砂である。耕土直下と地山面の2面で遺構が確認された。ピットと土坑で、耕土直下は近現代の可能性が高いが地山面は中世の遺構と考えられる。丘陵南斜面で石造物（五輪塔）が置かれており、遺跡の性格を表しているものと思われる。中央付近は耕土直下で地山が検出されており、遺構・遺物は確認出来なかった。耕作地開削で削平された可能性が高い。東側の一段低い部分である坪121・122は盛土がなされ、その下はシルト層の地山であった。安定した地点ではなく嵩上げされたようである。東側のさらに低い地点坪122-1も同様で、安定した面は確認されなかった。確認調査の結果、西側の坪114～116部分は本調査が必要と考えられた。調査図・写真については「平成27・28年度発掘調査報告・2018年」に報告しているので参照頂きたい。

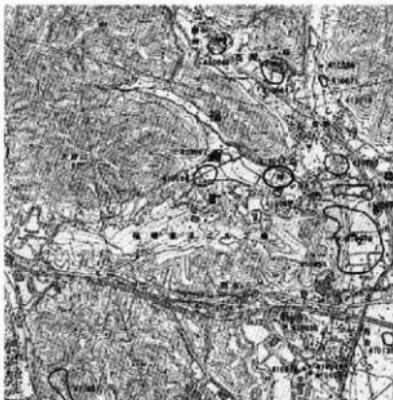


図3 調査地の位置 (1:35000)
(兵庫県遺跡地図2011.3、「前之庄」)

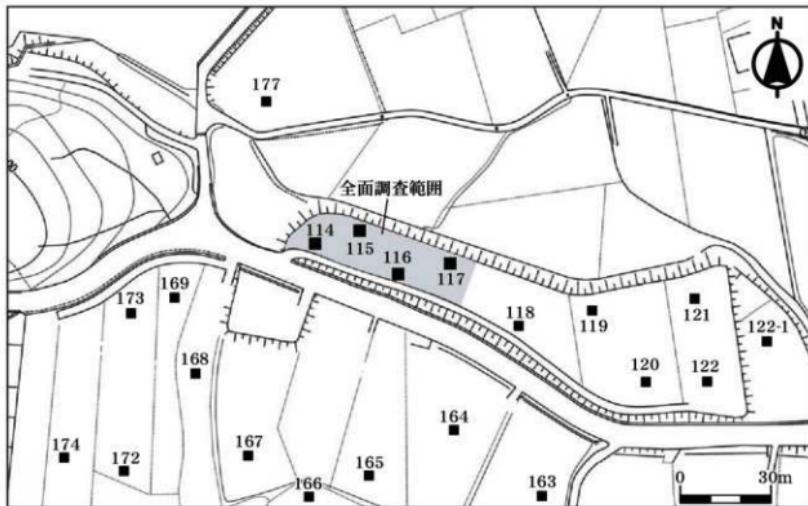


図4 確認調査・本発掘調査位置図

調査体制

調査主体 福崎町教育委員会
 教育長 高寄十郎
 社会教育課長 大塚久典
 社会教育課副課長 福永知美
 社会教育課主査 玉田誠司
 社会教育課主事 桶口碧
 整理作業員 梶智美
 調査担当 渡辺昇
 (播磨町郷土資料館)



図5 調査風景

第3節 本発掘調査の経過

調査の方法

調査対象地は畑地で牧草地となっていた。確認調査の結果で調査範囲を決め、掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。今春も牧草地として活用することから、埋め戻し作業も行った。

調査経過

確認調査の結果、本調査が必要とされた地点について平成28年度に本発掘調査を実施することとなった。工事設計が確定していないが、前田遺跡周辺は削平することが確実で将来的に調査が迫られることが予想されるので前倒しで実施することとなった。兵庫県中播磨県民センターと福崎町教育委員会で委託契約を交わした。発掘調査工事は株式会社マツダ建設が請け負ったが、一部（農家負担分）は文化財補助金を充当し直接雇用もしている。ドローン撮影と基準点測量は株式会社ジオテクノ関西に委託した。

調査は平成30年2月19日（月）～3月27日（火）の実働26日間を費やして行った。調査面積は1,136 m²である。調査は調査区を設定したのち、西側から機械掘削を行った。来季も耕作を行うことから耕土を掘り下げ東側に山とした。耕土置き場の距離があることからキャリーを使用して運搬した。その後、2層目と3層目の一部そして部分的に見られた擾乱土を機械掘削した。ベルトコンベアを設定し、西から順次人力掘削を行った。3月17日にドローンによって全景撮影を行い、実測・断割り作業のち、埋め戻し作業も行い調査を終了した。

調査体制

調査主体 福崎町教育委員会

教 育 長 高寄十郎

社会教育課長 大塚久典

社会教育課副課長 福永知美

社会教育課主事 橋口 碧

埋蔵文化財専門員 渡辺 昇

整理作業員 梶 智美

整理作業員 福永明子

調査参加者

藤後正和・大野武二郎・藤後 實・

大野加世子・後藤土彦・後藤祐香・

長谷川龍雄・北山直樹・勇内 実・

宇崎幸久・後藤正博



図6 調査風景

第4節 整理作業の経過

試掘調査・本発掘調査と平行して随時整理作業も実施した。土器洗浄や遺構図の調整などの作業は平成29年度に行なったが、それ以降の作業と報告書刊行は令和元年度に実施した。経費は発掘調査と合わせて兵庫県中播磨県民センターと委託契約を交わして実施した。

調査体制

調査主体 福崎町教育委員会
教 育 長 高寄十郎
社会教 育 長 大塚久典
社会教 育課副課長 森 公宏
社会教 育課課長補佐 中塚喜博
社会教 育課主査 長谷川幸子
社会教 育課主査 橋口 碧
埋蔵文化財専門員 渡辺 昇
整 理 作 業 員 梶 智美
整 理 作 業 員 福永明子



図7 調査風景



1	矢口遺跡	2	雨田遺跡	3	前田遺跡	4	神谷ヤブノハナ遺跡
5	神谷古墳	6	長野源訪神社周辺遺跡	7	下々通遺跡	8	観音堂遺跡
9	宮ノ前遺跡	10	五郎ヶ谷古墳				

図8 前田遺跡周辺の遺跡分布図

第5節 周辺の環境

前田遺跡は福崎町高岡字前田に所在する。福崎町域は市川の両岸に展開しており、市川の支流が流れ開析された谷を形成している。南側には隔絶はないが、他の3方向は地形的に隔絶しており、旧香寺町など旧神崎郡南半を含んだ地域が盆地となっている。前田遺跡は市川西岸に位置し、地質構造では丹波帯に属している。南側の中国自動車道沿いに断層があり、東西方向の交通路となっている。前田遺跡の北側にも大内川沿いに断層が存在するようである。谷地形は河川によって開析されたもので谷底平野になっており、周辺部は段丘である。前田遺跡は中位段丘にあたり、谷底平野奥部に矢口遺跡は存在する。

福崎町では旧石器時代からの遺跡・遺物が確認されているが、市川西岸では縄文時代からの遺跡が知られている。高岡地区では桜区の林谷遺跡で、石匙などの石器が採集されていたが、最近の調査で落とし穴が検出されている。弥生時代の遺跡も市川西側は明確でない。駅前区の中溝遺跡で中期の溝が、山崎の朝谷遺跡で後期の土器棺が出土している。終末の土器が宮ノ前遺跡・福田東田黒遺跡・西治下代ノ下モ遺跡や福田字町田、馬田字スガキで採集されている。西治下代ノ下モ遺跡では古墳時代になると集落を形成する。後期に製塙土器を保有している点も注目される。古墳は福崎町内で確認されているが、古相の古墳は高橋にある。高橋古墳群で早い段階に鉄剣が出土したことが知られている。箱式石棺を主体部とする6基以上の小円墳で構成される。今のところ福崎で最も古い古墳と考えられている。次の古墳は山崎の大塚古墳である。30m前後の円墳で、長さ12mを超す大型の横穴式石室を主体部としている。土器棺が出土した地点の隣接地に朝谷古墳群が築かれる。大塚古墳に続く時期の大型の石室を保有する1号墳（狐塚）が残存している。神谷古墳も近い時期の古墳であるが、高さが低くなり石室長が長くなっている。福田には東大谷古墳・宮山古墳・上垣内古墳・小山古墳の横穴式石室を主体部とする古墳があり、高岡には塩田山古墳・塩田山東古墳（桜谷古墳）・五郎ヶ谷古墳が、山崎には馬ウ子古墳群、西治には三昧谷古墳群・数可ノ古墳、高橋には佐本古墳が存在する。奈良時代の構造は矢口遺跡の堀立柱建物であるが、遺物は宮ノ前遺跡・觀音堂遺跡などで確認されている。中世の遺物も同様で広範に各地で採集されている。



図9 神谷古墳（墳丘〔上〕と石室〔下〕）

第2章 前田遺跡

第1節 調査の概要

基本層序は第1層耕土、第2層オリーブ褐極細砂、第3層地山である。部分的に第2層と第3層もしくは第1層と第2層の混じった層が第2層の上に存在する。また、最近の工事などに伴う碎石層や擾乱層が広範囲で認められた。部分的にキャタピラ痕も認められた。

検出した遺構はピット・溝・土坑・落ち込み・大畦畔で、性格の明らかな遺構は少ない。擾乱が多いことから遺構の形状も大きく損なわれており、遺構の残存状態は悪いものであった。

第2節 遺構

明確な遺構は掘立柱建物と水田遺構である。掘立柱建物は2棟確認しており、切り合い関係にある。柱穴の断割りでも上下関係や切り合い関係が確認されている。調査区北西部で検出しており、2棟とも調査区北側に続いている。新しい時期(SB01)は主軸方向をN38°Wで南北4間、東西3間以上の建物である。古い時期(SB02)は主軸方向をN60°Wで東西2間、南北2間以上の建物である。中世後半の遺構である。SB01は南西隅をSK85で切られているがコーナー部と考えている。柱の心々間距離は北から1.9・1.5・1.9・2.4mを測る。SB01とSB02に共通したピットSP55は断割りの結果、2時期の柱穴があることを確認している。調査区南西部でも柱穴列が認められた。これは新しい時期の遺構で主軸方向をN60°Wに取り、以前ここに存在していたと言われる巖島神社(現在南東方向に鎮座)関連の遺構と思われる。

調査区東側と中央部南側は水田関連の遺構である。時期差があるものと思われ、東側から南東部の不定形の水田が古く、大畦畔を有する南側の水田が新しいと思われる。SF138は大畦畔で直線に延びている。32m検出しているが、西側にさらに延びていたものと思われる。東側は端部で屈曲している。南側では自然地形に則した不定形の大畦畔と直線の大畦畔が検出している。南側のSX157・158・160・162の落ち込みは水田面の落ち込みと思われる。後世の改変があり、一部不明瞭になっているが不定形の水田面と思われる。

SK02は桶を入れた土坑である。埋め桶(SI01)で生活関連の遺構であろうと思われる。それ以外に土坑・落ち込み・溝を確認したが、性格のわかる遺構はなかった。切り合い関係のある遺構も多く、長期にわたって利用されていたことが判明した。今回、明瞭な遺構は確認されなかったが、五輪塔が確認されていることから、中世後半に墓地として利用されていた可能性が高い。現在西側の丘陵部は墓地となっており、それより古い墓地が前田遺跡に存在したものと思われる。

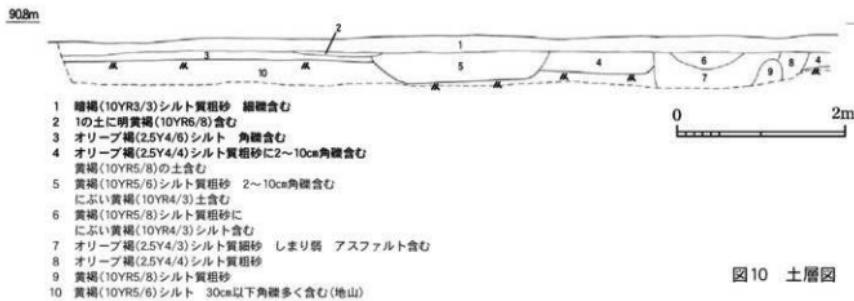
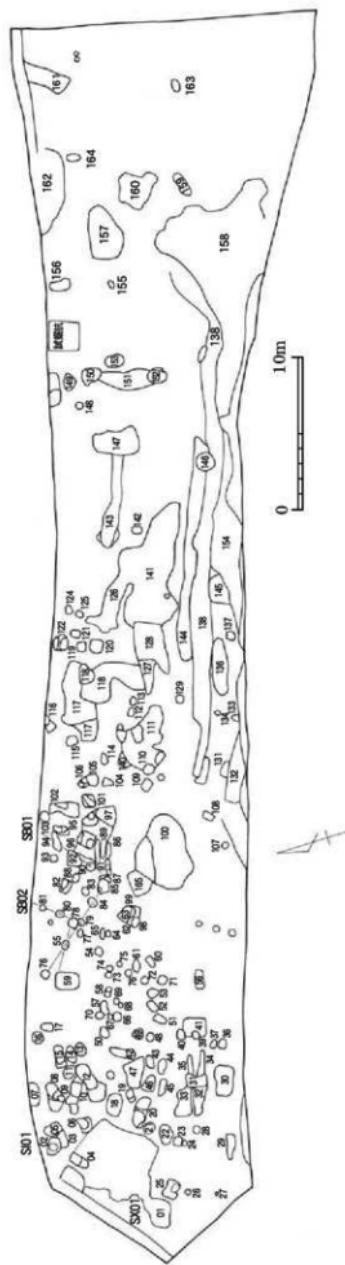


図10 土層図

図11 全体図



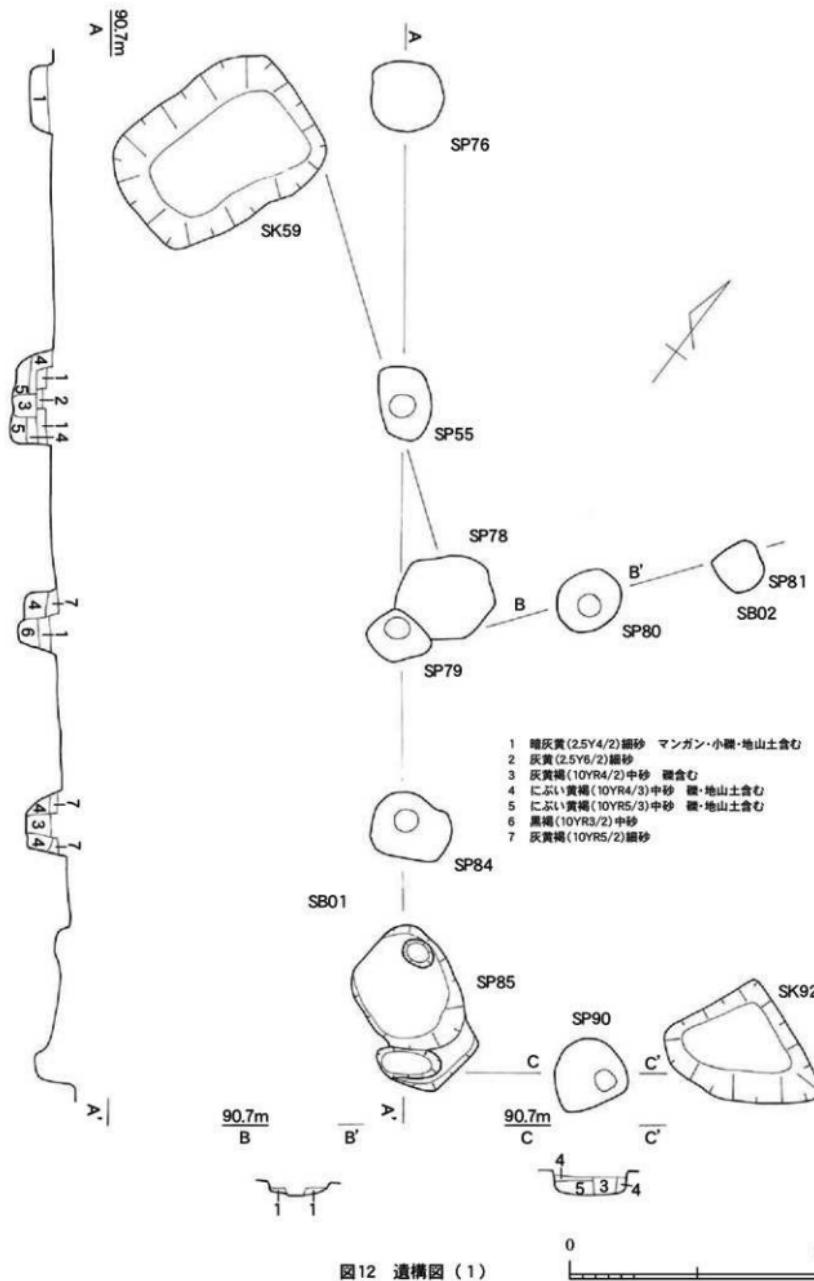


図12 透構図 (1)

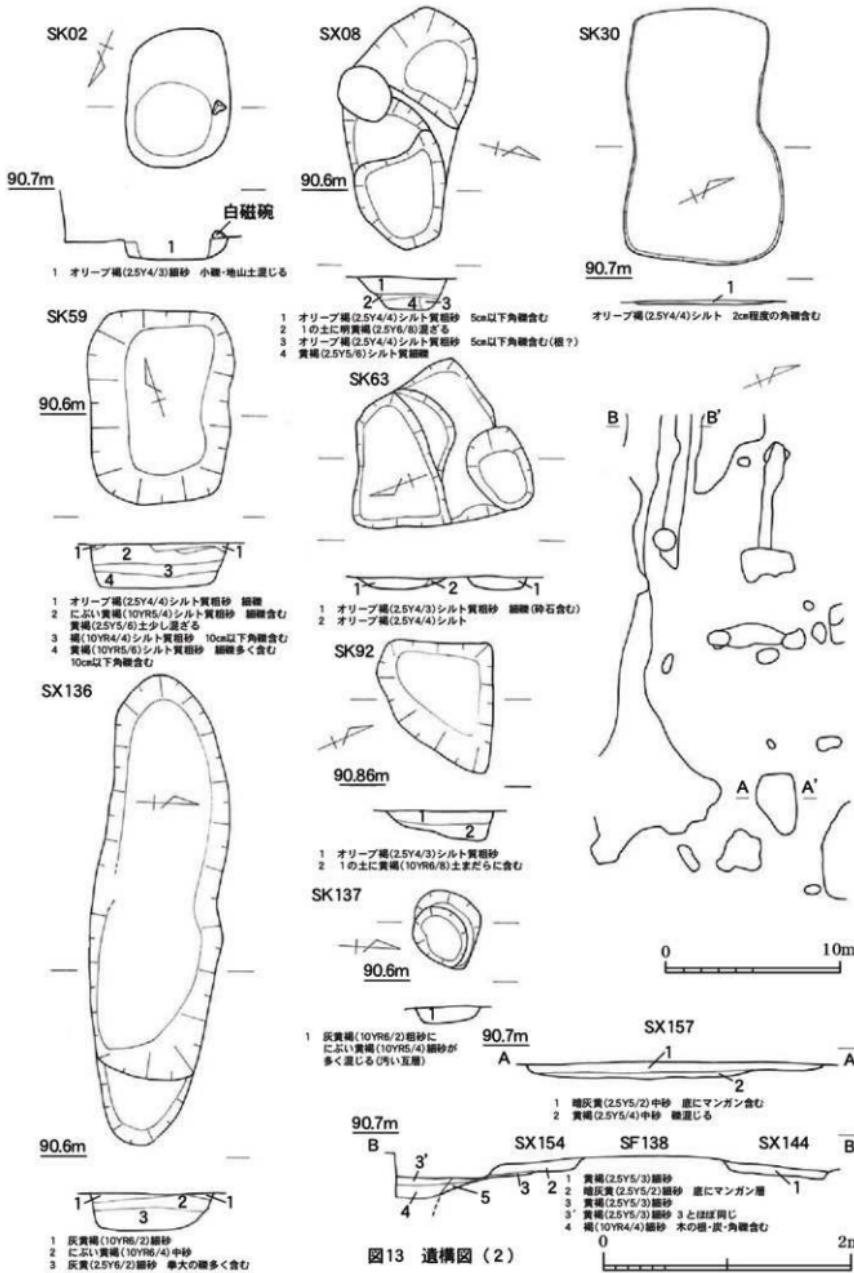


図13 造構図 (2)

第3節 出土遺物

土器と石製品、鉄器が出土している。土器は須恵器・土師器・陶磁器を図化した。

1・2は白磁碗でSK02から出土している。ともに内湾する体部から玉縁状の口縁部になる。2の外面下半は施釉されていない。3はSK100出土の白磁碗口縁部である。外傾する口縁部で端部は肥厚するが、丸くなく縦長になっている。口径もやや小振りである。4～6は須恵器楕で包含層出土である。4は外傾する口縁部で端部を丸く納める。端部には重ね焼き痕が残っている。5は内湾する口縁部で端部肥厚している。6は外傾し端部は丸い。3点ともロクロナデである。7は土師器皿で内湾し端部は丸い。8は土師器楕底部でヘラ切りを施すが、再成形したように歪である。9は土師器甕口縁部で端は部角張り外傾する。10は土師器甕口縁部で外反する。端部が角張り外側にやや肥厚する。内面はハケ整形からヨコナデで仕上げる。11は白磁碗底部である。端部と内面は施釉していない。12も白磁碗で削り出し高台で底面は施釉していない。厚手である。

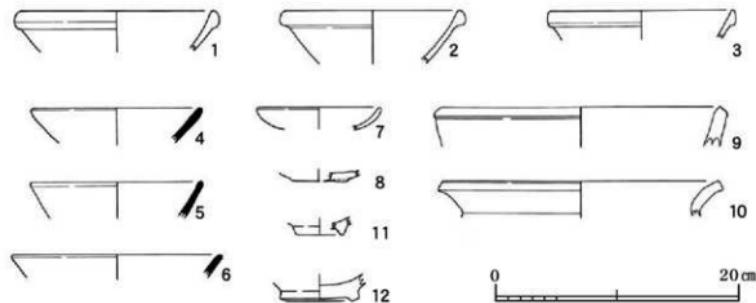


図14 土器実測図

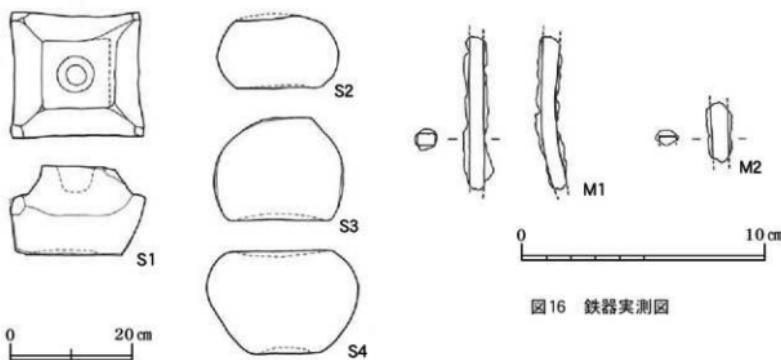


図15 石造物実測図

図16 鉄器実測図

鉄器は2点でSK04出土である。断面長方形でともに釘と思われる。M 1は先が曲がっている。石製品は6点出土している。石造物は4点ありすべて五輪塔で火輪1点、水輪3点である。高室石製で整形痕が多く残している。火輪S 1は軒がやや厚く反りが強い。歪なつくりになっており、上面には風空輪が嵌入する穴が彫り込まれ、下面は水輪と接する部分が浅く彫られている。水輪3点は形状に変化がある。S 2は扁平で、S 3は角張り、S 4は壺形になる。同一遺跡で形態に大きな差異があるのが特徴である。石器は2点出土している。S 5は砥石である。上面は3方向以上の擦過痕が認められる。裏面の長辺両端に低い突帯を有している。観状に見えるが、明瞭な痕跡は看取できない。S 6は内湾するもので被熱している。通常滑石を使用しているが、形態は滑石と類似している。チャート製である。温石の可能性を求めてみたい。

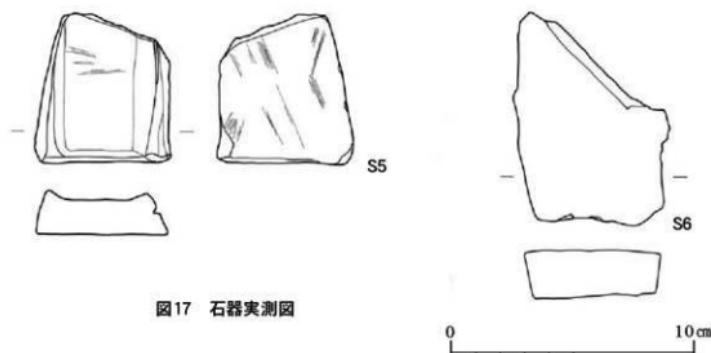


図17 石器実測図

表1 土器観察表

番号	種別	器種	遺構	法量(cm)			調整		備考
				口徑	器高	底径	外	内	
1	白磁	碗	SK02	(15.8)	(3.3)				
2	白磁	碗	SK02	(14.4)	(4.4)				
3	白磁	碗	SK100	(14.8)	(2.3)				埋土中
4	須恵器	山茶楓	包含層	(14.0)	(2.8)		ロクロナデ		
5	須恵器	山茶楓		(14.2)	(3.0)		ロクロナデ		調査区中央西端
6	須恵器	山茶楓		(17.2)	(1.9)		ロクロナデ		調査区中央西端
7	土師器	皿		(11.0)	(1.8)		ナデ		調査区中央西端
8	土師器	皿			(1.0)	(5.0)	ナデ		調査区中央西端
9	土師器	鍋		(24.0)	(3.2)		ナデ		調査区中央西端
10	土師器	鍋	包含層	(23.4)	(2.9)		ナデ		ハケのちヨコナデ
11	白磁	碗	包含層		(1.4)	(3.6)			
12	白磁	碗			(2.1)	(6.5)			表探

表2 鉄器実測図

番号	種別	器種	遺構	法量(cm)			備考
				長さ	幅	厚さ	
1	鉄器	鉄釘	SK04	(6.3)	7.0	4.5	
2	鉄器	鉄釘	SK04	(2.5)	7.0	4.0	

表3 石造物観察表

番号	種別	石材	遺構	法量(cm)			備考
				高さ	幅	奥行	
S1	火輪	凝灰岩		14.5	21.6	20.8	下面も少し彫り込んでいる
S2	水輪	凝灰岩		残11.8	20.0	20.0	全面にノミ痕
S3	水輪	凝灰岩		16.8	21.2	21.2	前面の被熟、全面にノミ痕
S4	水輪	凝灰岩		16.5	24.8	23.6	全面にノミ痕

表4 石器観察表

番号	種別	石材	遺構	法量(cm)			備考
				継	幅	高さ	
S5	砥石	凝灰岩	SK08	6.1	5.6	1.8	
S6	温石	チャート		8.7	6.4	2.0	被熟

第4節 小結

今回の調査では、当初予想した中世墓は確認されなかった。掘立柱建物と大畦畔が確認され、前田遺跡は墓地以外に生活空間と生産地としても利用されていることが明らかとなった。水田は自然地形を利用した不定形のものと直線の大畦畔の両者がある。出土遺物は12世紀後半から13世紀の土師器・須恵器・白磁が出土しており、その時期の遺構も掘立柱建物などがある。大半の遺構は中世末から近世・近代と思われる。居住域から墓地そして生産域に変化した過程が調査で明らかになった。

第3章 矢口遺跡

第1節 分布調査

昭和63年度に福崎町高岡地区のほ場整備事業が計画された。今回調査した高岡地区の西側谷部に位置している。福崎町周辺では唯一、県下でも出土例の少ない銅帶金具などの出土があった。福崎町教育委員会主体の草創期の調査報告である。

調査対象地は神崎郡福崎町高岡である。区で呼ぶと神谷・板坂・長野区に及ぶ範囲が対象となった。当時、福崎町では文化財担当職員を配置しておらず、姫路周辺在住の研究者に依頼していた。今回は1989年1月14・16・22・29日の4日間、中村信義氏によって分布調査が実施された。それが下記報告である。

調査に至る経緯及び環境

福崎町が1989年度に実施するほ場整備事業に伴い、事前に事業予定地内における埋蔵文化財の分布調査を行った。

調査地区は、福崎町役場より北西約3kmに位置する中小企業大学関西校北側を流れる、矢口川・大内川に沿った山間のところである。

中小企業大学関西校南側を東西に連なる山の東端には、兵庫県教育委員会一遺跡分布図及び地名表により「五郎ヶ谷古墳」の所在が知られている。

調査の概要

分布調査は、ほ場整備事業予定地内西側「山ガ谷」「大井谷」「大才谷」「矢口」「内山」「谷田野」「大内」より東に向かって神谷集落西側手前までの約13ヘクタールの範囲で行った。

調査の結果、ほ場整備事業予定地内、約半分近くの面積より土器等を採集した。特に調査No.3～5・17・44・45・50～52・131・132・137・139・158・165・171・204に数多くの遺物を認めることができた。また調査No.6・9よりは弥生時代の石器として不定形刃器(S2)を採集している。

今回のような地表面の目視観察のみでは遺物の有無及び地形の変化をつかむのが限度である。このため、遺物の採集状況にもとづき、なお一層の確認調査をすることが必要であると思われる。

第2節 確認調査

分布調査結果をもとに土地改良事業者と協議を重ね確認調査を実施することとなった。調査担当者は引き続き中村信義氏に依頼し、1989年2月21～23日の3日間で行った。以下、当時の調査報告の一部である。



図18 調査位置図

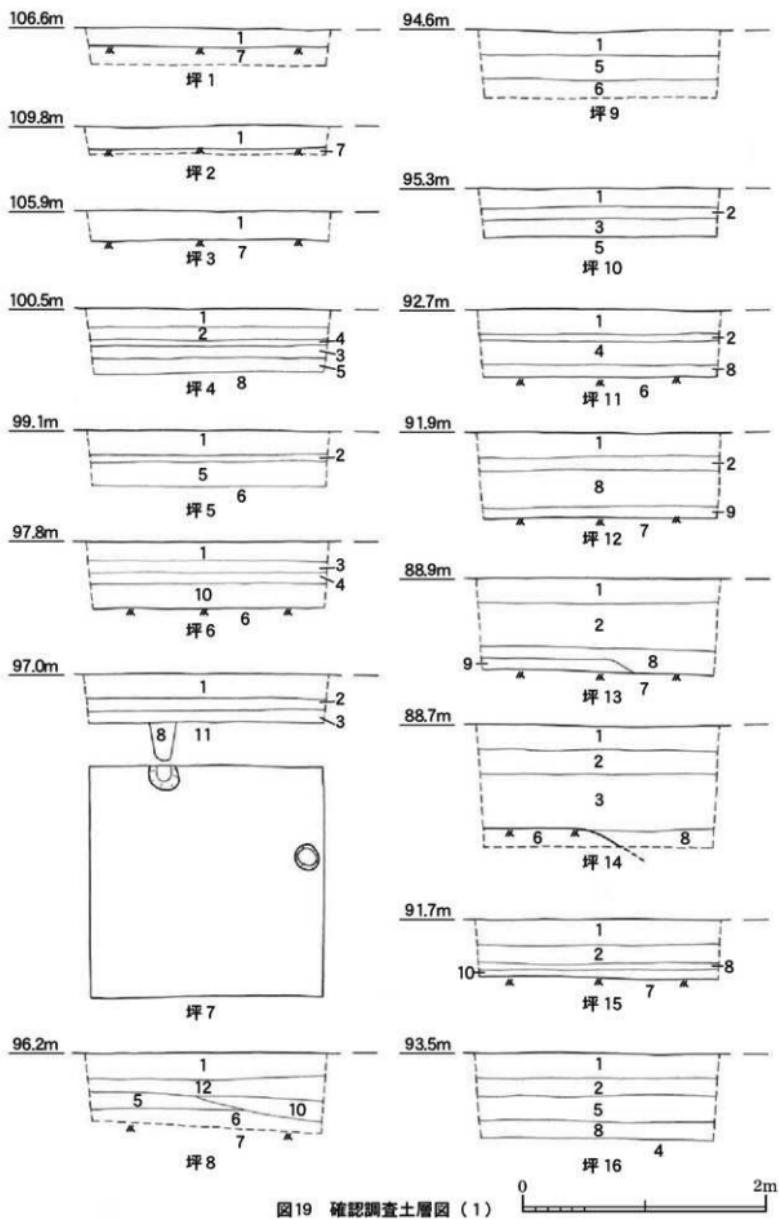


図19 確認調査土層図(1)

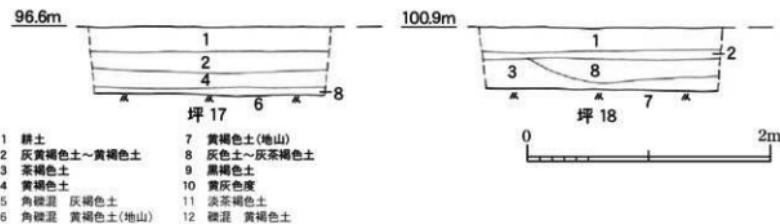


図20 確認調査土層図（2）

調査の概要

確認調査は、分布調査の結果から土器採集量の多いところを基準として2m×2mの坪を18ヶ所設定して行った。

遺構遺物などにあたらなかった坪はNo.1～3・5・14・17・18の7ヶ所である。

坪No.7では2ヶ所のピットを検出した。また、遺物では奈良～平安期と思われる土器と巡方を検出している。

他の坪では遺物のみで遺構は検出していない。遺物は奈良～平安期を中心とした土器が主である。これ以外のものとしては、断面が摩耗した弥生土器が数点と中世の土器・近世の陶磁器類等がある。また、坪No.10では不定形刃器を検出している。

以上の結果から、遺跡があったと考えられる坪No.7付近に関しては坪No.5・6・8・9の土層などの観察から、矢口川の氾濫によりほとんどが侵食され、わずかに一部が残ったものと考える。その他の設定区に関しては、矢口川の氾濫による遺物の広がりと、後世の開墾等により遺跡の攪乱・消滅が考えられる。

第3節 全面調査

確認調査結果報告が兵庫県教育委員会に進呈され、現地確認したところ、鎌倉金具（巡方）の出土したNo.7周辺の排水路部分については全面調査が必要であると判断された。その結果を福崎町産業課へ伝え、協議がなされた。福崎町は文化財担当職員がいないことから（これを契機に翌年配置された）、隣の市川町教育委員会に職員派遣を依頼し承諾を得た。市川町教育委員会の原田和幸氏を調査担当者として平成元年12月1日～15日の10日間、全面調査が実施された。調査面積は排水路部分の525m²（幅7m、長さ75m）であった。

調査の概要

基本的な土層としては、耕土・黄褐色砂質土（盛土）・淡灰色砂質土（旧耕土）、この下に部分的に暗茶褐色シルト質土の包含層があり、黄褐色シルト質土の地山となる。調査地の西半は矢口川によって地山が深く削られ、砂礫層となっている。

遺構としては、多数の柱穴と土坑4基が検出されている。柱穴については、建物としてとらえることができたのは4棟であるが、調査区が7m幅であるため、いずれも全体の構造を知ることはできなかった。

建物1 2間×

建物2 2間×

建物3 3間×2間以上

建物 4 3間×2間以上

建物 1・2は柱穴の径がいずれも 20～30cmで、主軸をわずかにずらしているので、建て替えの可能性がある。建物の時代については、建物 4が奈良時代、他は平安時代後半と思われる。

今回の調査では、奈良時代～平安時代の集落の一部を明らかにできたが、確認調査で出土した巡方と直接関連する遺構・遺物は発見できなかった。

第4節 出土遺物

出土遺物は実績報告や町史編纂に際して一部図化されていた。その後整理作業段階で随時作業が行われていた。高岡地区のは場整備事業でもあり、今年度改めて報告するため整理作業を行った。遺構図・遺構写真は中村信義・原田和幸両氏、遺物は中村信義・古田陽（現小船井、羽咋市教育委員会）両氏と梶・福永が実測した。

1は磨滅が著しく明確ではないが胎土・色調から縄文土器と思われる。縄文を施文している可能性がある。2は弥生土器で壺体部である。後期のタタキが施されている。3・4は須恵器壺で内面に当て具痕（青海波文）が残る。5～11は須恵器杯蓋である。5は大きく曲げて端部を作り出すが、他は端部をつまみ出している。7だけつまみを残している。12～16は須恵器杯で16だけ高台を付けた杯Bである。17・18は須恵器椀である。内湾しており、端部は丸くつまみ出している。19・20・23～25は須恵器壺と思われる。19は器壁の厚い底部である。20は底部稜線が甘く直立ぎみに上がるでの壺としたが、杯かもしれない。23は生焼けで底面の稜線は甘い。24は端部が内外に肥厚する高台を持ち、外側に開き底部は平たく体部は内湾する。25は外反する口縁部で、端部近くで短く水平に延びてから端部を上方につまみ上げる。21・22は須恵器皿である。21は精良な胎土である。22は重ね焼きの痕跡があり、浅いことから皿としたが歪な杯かもしれない。26は備前焼壺口縁部で反りぎみに外傾し端部は肥厚する。27は大形の甕口縁部である。外反し端部は角張り肥厚する。5本単位の波状文2条が施されている。28は平瓶で丸底から肩の張る扁平な体部に外傾し端部が尖る口縁部が付く。29は土師器杯で外傾し端部は丸い。表面は磨滅している。30は土師器把手で瓶であろうか。31～37は須恵器椀でロクロナデである。31は外傾する体部から口縁部反りぎみに外側に尖らす。32は内湾する体部から口縁端部は外側に開き丸く仕上げる。33はヘラ切りの平底で杯かもしれない。34は外傾し端部尖りぎみである。35～37は糸切り底である。38は須恵器の小形壺で、やや不安定な平底から扁平な内湾する体部に続く。底面はヘラ切り、体部はロクロナデで整形されている。39は土師器皿でナデ仕上げの非ロクロ系皿である。器壁は厚めで内湾し端部丸い。40は小片で径など復元できない。内湾する体部で肩部に突帯を付加する土師器羽釜である。41は瓦質羽釜で内湾し端部が尖りぎみである。40より大きな断面三角形の羽釜部である。26と31以降は中世の遺物であるが、この時期に多出する捏鉢は見られない。42は土師質の土鍤である。管状で中央が膨らむタイプである。43は人形土製品である。頭部・腕は明らかであるが、顔の表現が磨滅していることから、リアルな作りに見えない。44は石製のサイコロである。現在の市販のサイコロとは配列が異なっている。6の裏が5、4の裏が1、3の裏が2である。点を刺突し鉛筆？で黒く塗っている。立方体でなく歪である。白っぽい石材で滑石の1種であろうか。45は銅帶である。巡方の銅製金具で鍍金が残っている。1寸の小形品で裏板とは4隅の鋲で繋いでいる。

S1・S2は不定形刃器でサヌカイト製である。S3はチャート製で火打石である。緑色を呈し打面は鈍角である。

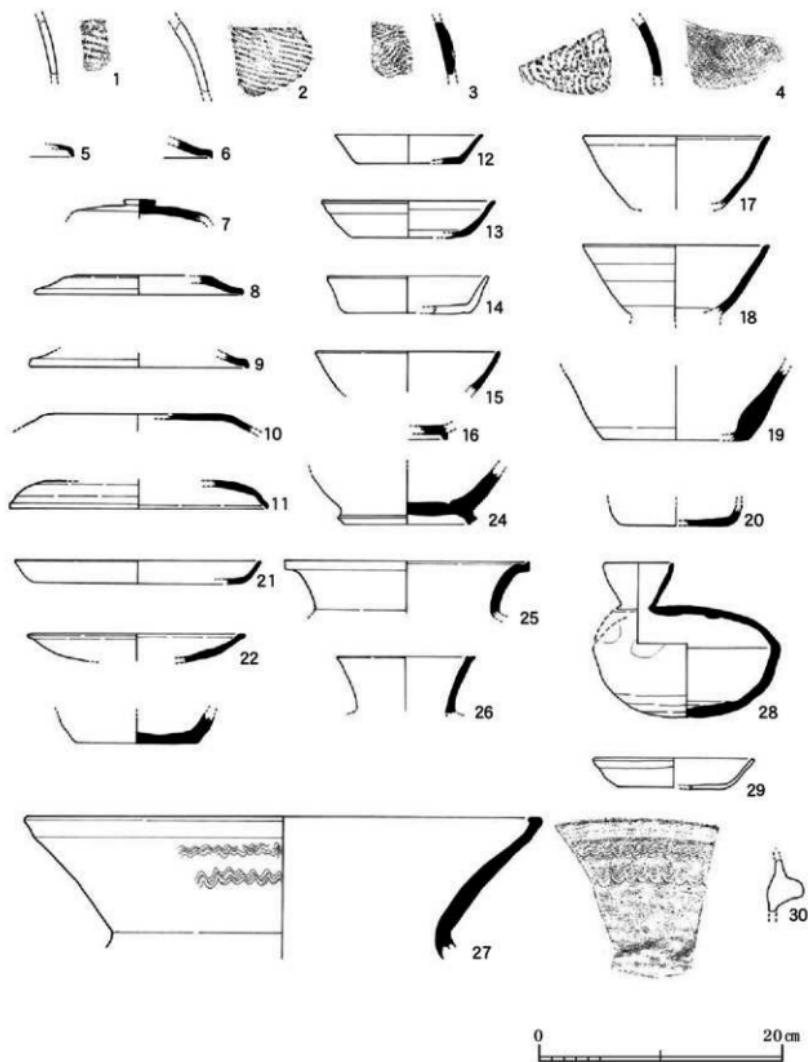


図21 遺物実測図 (1)

0 20 cm

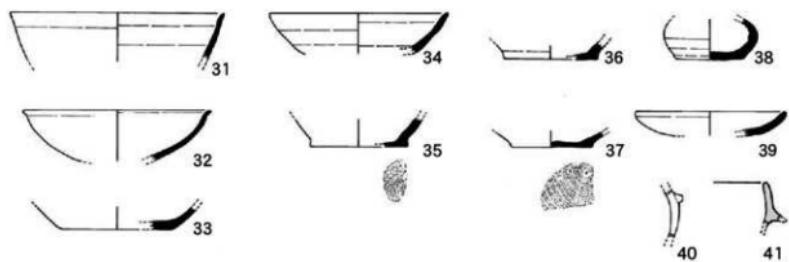


図22 遺物実測図 (2)

0 20 cm

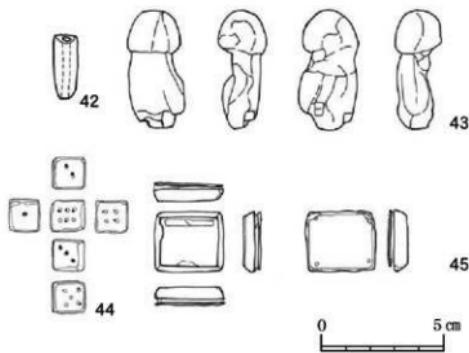


図23 遺物実測図 (3)

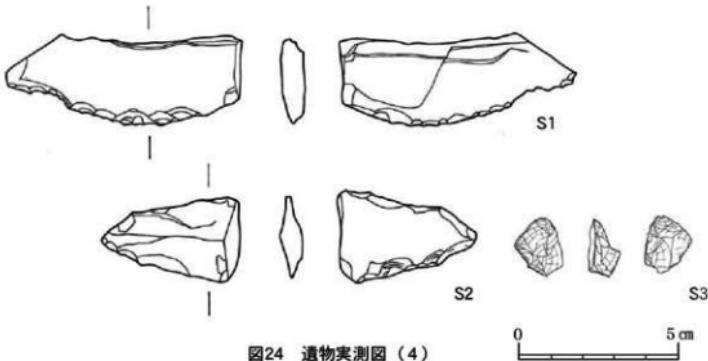


図24 遺物実測図（4）

第5節 小結

矢口遺跡の発掘調査は福崎町教育委員会の嘴矢となった調査である。掘立柱建物4棟などが検出され、奈良時代から中世にわたる遺跡であることが確認された。出土遺物は縄文時代から近代までと幅広い。縄文から古墳時代の遺物は磨滅顕著な小片である。造構の時期は奈良時代後半から鎌倉時代と思われる。掘立柱建物4棟もこの時期で、正方位に近いものが古いと思われる。出土遺物の中で銅帶は福崎町内では出土例のない資料で貴重である。県下全体でも52遺跡80例余りの希少資料である。そのうちの大半が石製品である。銅帶としての巡方は但馬には袴狭遺跡・深田遺跡・福成寺遺跡からやや多く出土例があるが、播磨では神戸市吉田南遺跡と加東市横谷・菊沢遺跡、太子町亀田遺跡、矢口遺跡の4点だけである。その点からも矢口遺跡は評価されるものと思われる。最近の調査で高岡地区の宮ノ前遺跡、狐塚遺跡で奈良時代の遺物が確認されており、市川西岸にもこの時期の遺跡が増加しつつある。稜橢や製塩土器など官衙的遺物も含まれており、銅帶とともに矢口遺跡の性格を考える上での傍証になろう。

表5 土器観察表

番号	種別	器種	遺構	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	縄文土器	鉢	遺構面上		残4.4				ナデ
2	弥生土器	甌	中央付近茶褐色包含層		残5.8		タタキ		ナデ
3	須恵器	甌			残4.2		タタキ		タタキ
4	須恵器	甌	pit12		残4.5		タタキ		タタキ
5	須恵器	杯蓋	中央付近茶褐色包含層		残1.4		ロクロナデ		ロクロナデ
6	須恵器	杯蓋	中央付近茶褐色包含層		残1.5		ロクロナデ		ロクロナデ
7	須恵器	杯蓋	遺構面上		残1.7		ロクロナデ ヘラケズリ		ロクロナデ
8	須恵器	杯蓋	中央付近茶褐色包含層(17.0)		残1.6		ロクロナデ		ロクロナデ
9	須恵器	杯蓋	中央付近茶褐色包含層(17.8)		残1.4		ロクロナデ		ロクロナデ
10	須恵器	杯蓋	遺構面上		残1.5		ロクロナデ ナデ		ロクロナデ
11	須恵器	杯蓋	遺構面上	(21.2)	残2.4		ロクロナデ		ロクロナデ
12	須恵器	杯	遺構面上	(12.0)	残2.4		ロクロナデ		ロクロナデ
13	須恵器	杯	pit4	(14.0)	3.0	(9.2)	ロクロナデ		ロクロナデ
14	須恵器	杯	pit2	(13.0)	3.0	(10.0)	ロクロナデ		ヨコナデ
15	須恵器	杯	中央付近茶褐色包含層(15.0)		残3.3		ロクロナデ		ロクロナデ
16	須恵器	杯	中央付近茶褐色包含層		残1.1		ロクロナデ		ロクロナデ
17	須恵器	楕		(15.2)	残6.0		ロクロナデ		ロクロナデ
18	須恵器	楕	暗茶褐色包含層(15.0)		残5.8		ロクロナデ		ロクロナデ
19	須恵器	壺	土坑 埋土		残6.2		ナデ ケズリ		ロクロナデ
20	須恵器	壺	pit3		残1.6	(8.5)	ロクロナデ		ロクロナデ
21	須恵器	皿	中央付近茶褐色包含層(20.0)		1.9		ロクロナデ		ロクロナデ
22	須恵器	皿	中央付近茶褐色包含層(17.0)		残2.3		ロクロナデ		ロクロナデ
23	須恵器	壺	中央付近茶褐色包含層		残2.2	(9.8)	ロクロナデ		ロクロナデ
24	須恵器	壺	pit9		残4.6	(11.2)	ロクロナデ		ロクロナデ
25	須恵器	壺	pit25	(20.0)	残4.5		ロクロナデ		ロクロナデ
26	備前焼	甌	遺構面上		残4.6	(11.2)	ロクロナデ		ロクロナデ
27	須恵器	甌	pit27	(42.0)	残11.6		ロクロナデ 波状文		ロクロナデ
28	須恵器	平瓶	pit26	5.4	12.6	10.0	ロクロナデ ケズリ		ロクロナデ
29	土師器	杯	pit13	(13.0)	2.4	(9.0)	ヨコナデ		ヨコナデ
30	土師器	把手	中央付近茶褐色包含層		残4.4				
31	須恵器	楕	遺構面上	(17.6)	残4.0		ロクロナデ		ロクロナデ
32	須恵器	楕	中央付近茶褐色包含層(15.0)		残4.2		ロクロナデ		ロクロナデ
33	須恵器	楕	中央付近茶褐色包含層		残1.9		ロクロナデ		ロクロナデ
34	須恵器	楕		(14.8)	残3.4		ロクロナデ		ロクロナデ
35	須恵器	楕	中央付近茶褐色包含層		残2.4	(8.0)	ロクロナデ		ロクロナデ
36	須恵器	楕	中央付近茶褐色包含層		残1.6	(7.6)	ロクロナデ		ロクロナデ
37	須恵器	楕	中央付近茶褐色包含層		残1.3	(6.6)	ロクロナデ		ロクロナデ
38	須恵器	ミニチュア土器	暗茶褐色包含層		残3.4	(5.5)	ロクロナデ ヘラケズリ		ロクロナデ
39	土師器	皿	pit16	(12.2)	残2.0		ナデ		ナデ
40	土師器	羽釜	中央付近茶褐色包含層		残4.0		ヨコナデ		ヨコナデ
41	瓦質土器	羽釜	中央付近茶褐色包含層		残3.6		ヨコナデ		ヨコナデ

表6 遺物観察表

番号	種別	器種	遺構	法量(cm)			備考
				長さ	幅	厚さ	
42	土製品	土錐	pit6	残2.5	1.0		まきつけ技法
43	土製品	土人形	高岡A53		4.9	2.4	
44	石製品	サイコロ	高岡A64		1.3	1.3	滑石製
45	銅製品	透方	7 2層目		2.5	2.8	鍍金

表7 石製品観察表

番号	種別	器種	遺構	法量(cm)			備考
				長さ	幅	厚さ	
S1	石器	不定形刃器	坪No.10 2層目		7.1	2.4	0.7
S2	石器	不定形刃器	坪No.1・2 表採		4.1	2.7	0.9
S3	石器	火打石			1.9	1.4	

報告書抄録

ふりがな 書名	まえだいせき やぐちいせき 前田遺跡 矢口遺跡
副書名	
シリーズ名	福崎町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	19
編著者名	種口 碧・渡辺 异
編集機関	福崎町教育委員会
所在地	〒679-2280 兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1 TEL 0790-22-0560
発行年月日	2020年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯度分秒	東経度分秒	調査期間	調査面積 m ²	要因
		市町村	遺跡番号					
まえだいせき 前田遺跡 (第1次)	ひょうごけんかみさきくらしふくざきちょうかわせあざ 兵庫県神崎郡福崎町高岡字 まえだ 前田814-1他	28443	410068	34度 57分 44秒	134度 44分 12秒	2018年 2月19日～ 3月30日 (12日)	1136	ほ場整備
やぐちいせき 矢口遺跡 (第1次)	ひょうごけんかみさきくらしふくざきちょうかわせあざ 兵庫県神崎郡福崎町高岡字 うちやまほか 内山他	28443	410094	34度 57分 51秒	134度 43分 51秒	1989年 12月1日～ 15日 (10日)	525	ほ場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
前田遺跡 (第1次)	集落	中世	掘立柱建物 土坑 壁畔	須恵器・土師器 陶磁器・石造物	
矢口遺跡 (第1次)	集落	奈良・平安時代	掘立柱建物 土坑	須恵器・土師器 土製品・石器 道方	

写 真 図 版

図版 1



調査前全景（西から）

前田遺跡



調査前全景（東から）



機械掘削



耕土運搬状況



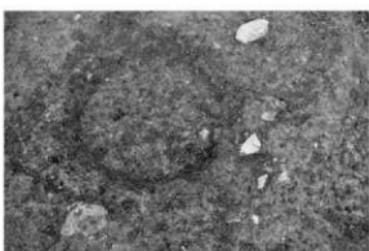
西壁



調査風景

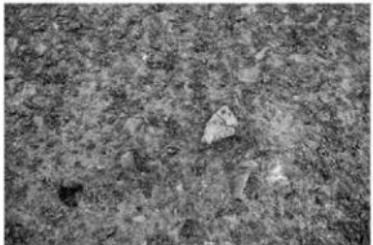


SK02 桶部断面（西から）



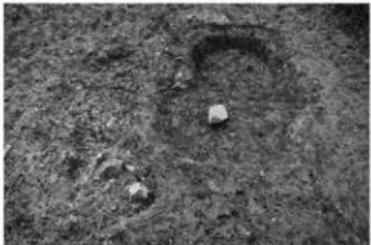
SK02 桶部全掘（西から）

図版2

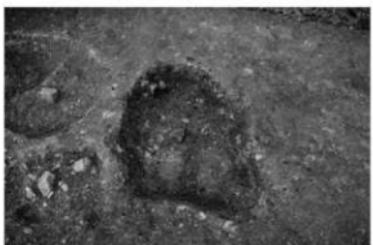


SK02 白磁出土状態

前田遺跡



SK02・03 全景 (東から)



SK08 (東から)



SX07 アゼ (東から)



西壁



SX10 (東から)



SX12 (東から)



SK14 (東から)

図版3

前田遺跡



SK15 断面 (北から)



SK15 (北から)



SK25 (東から)



SK28 (東から)



SX30 アゼ (東から)



SK31 アゼ (東から)



SK32 アゼ (東から)



SD34 (東から)

図版 4



SD35 断面 (東から)

前田遺跡



SD35 (東から)



SK41 断面 (東から)



SK41 (東から)



SK50 (東から)



SK56 (東から)



SK85 (東から)



調査風景

図版5



SD86・89・91 (東から)

前田遺跡



SD86・89・91 (東から)



SK93 (東から)



SK96 (東から)



SK97 北断面 (東から)



SK97 (東から)

図版6



SK100 断面（南から）

前田遺跡



調査風景



SK102（西から）



SK103 断面（南から）



SK104（南から）



SK108(南東から)

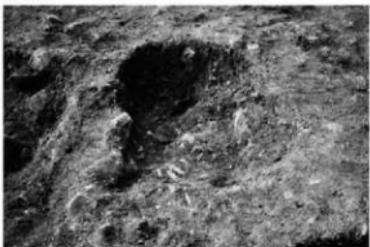


SK116（西から）



SX117（南から）

図版 7



SK119 (南から)

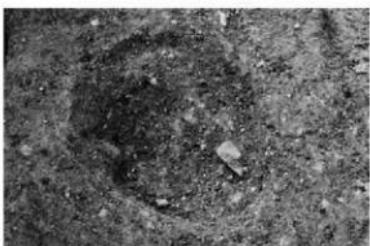
前田遺跡



SX128 断面 (南から)



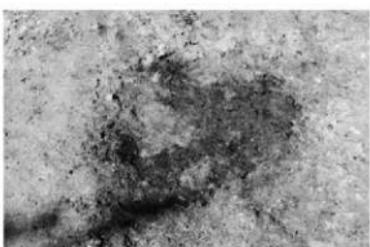
SX136 断面 (南から)



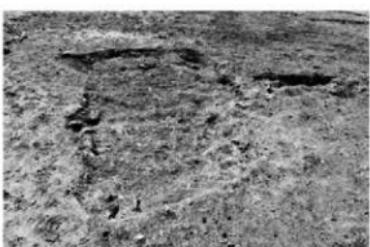
SK137 (南から)



SX143 北7セ (南から)



SX146 焼土・炭屑 (南から)



SX147 (東から)



調査風景

図版8



SP55 断割り（南から）

前田遺跡



SP79 断割り（南から）



調査風景



掘立柱建物周辺



大アゼ（SF138）全景（西から）



中央北側（東から）



シート養生



写真用足場設置

図版9



排水作業



前田遺跡



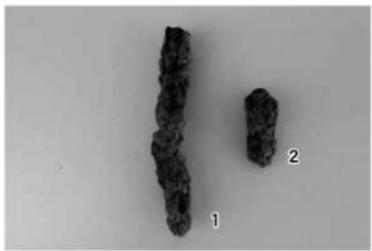
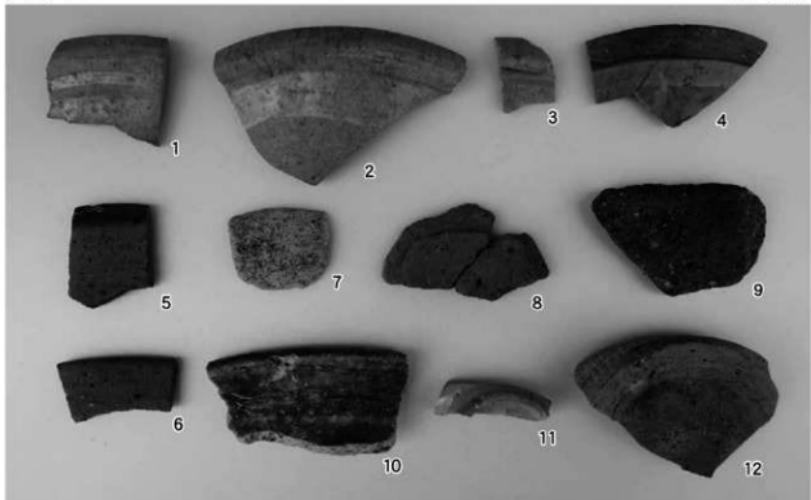
埋戻し風景



前田遺跡上空から神谷古墳・福崎市街地

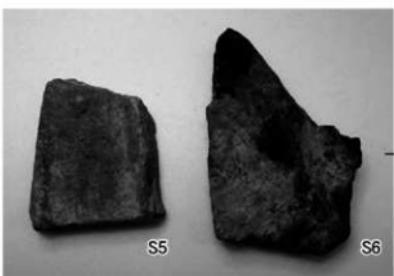
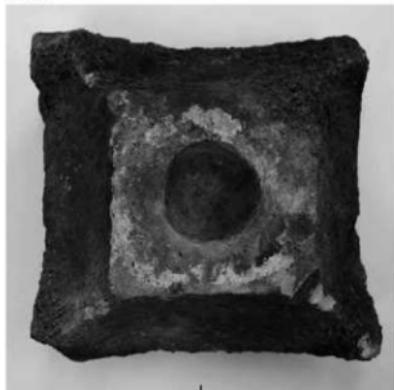
図版10

前田遺跡



図版11

前田遺跡



図版12



矢口遺跡



矢口遺跡確認調査景観・調査風景

図版13

矢口遺跡



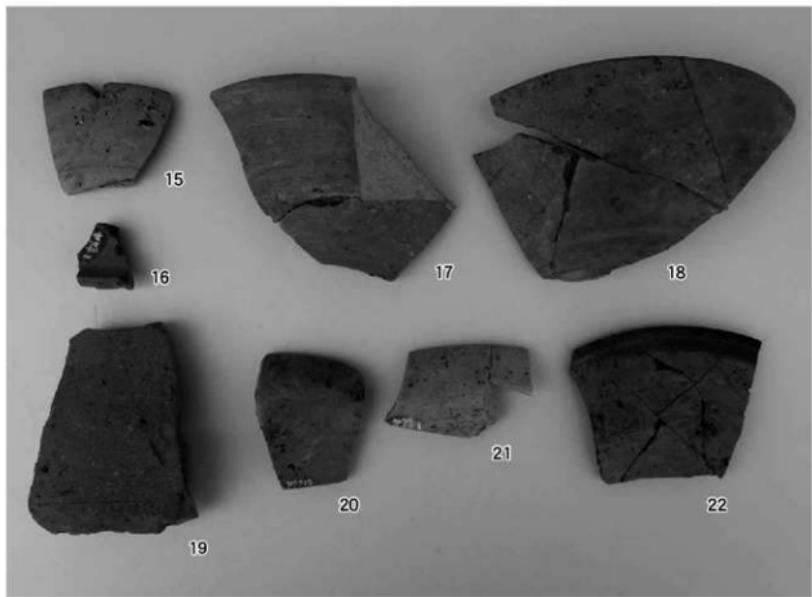
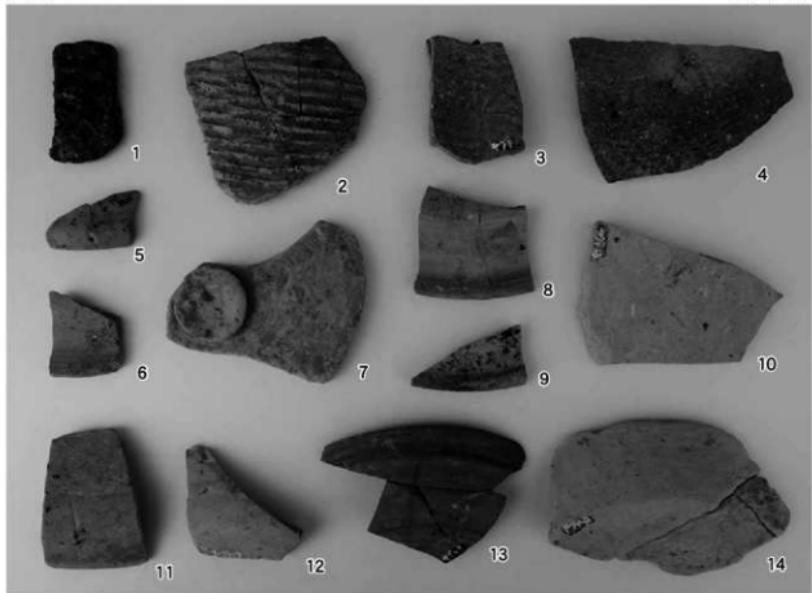
全面調査区全景

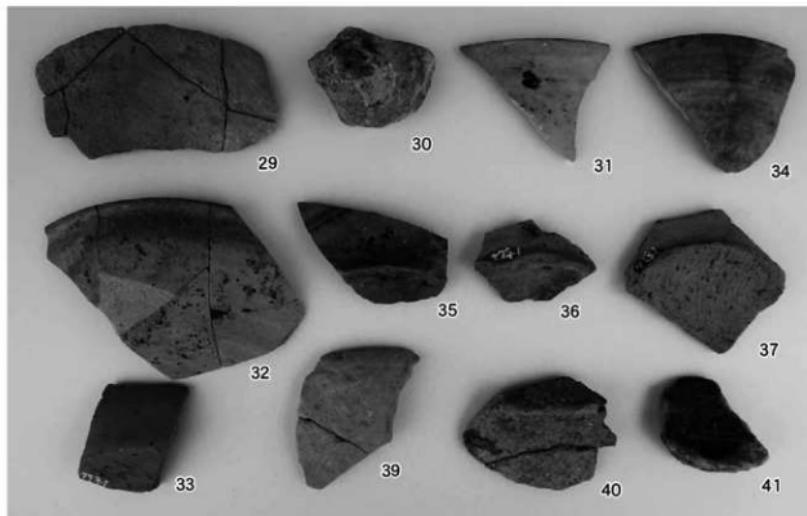
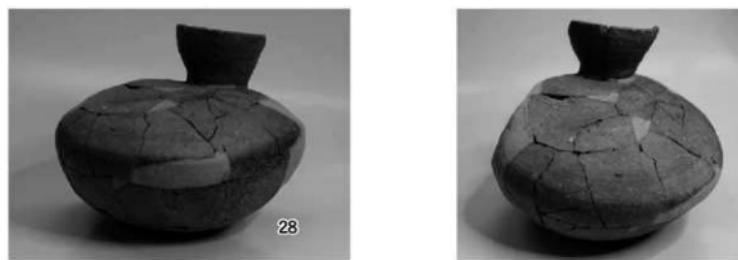
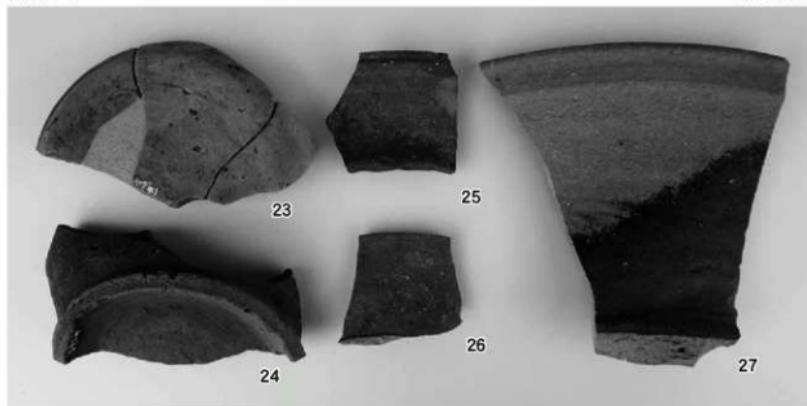


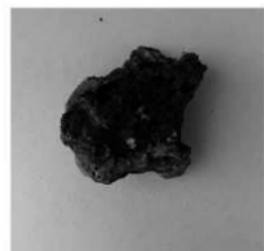
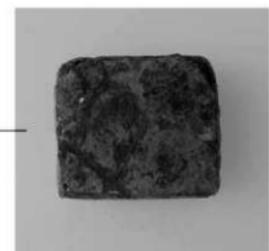
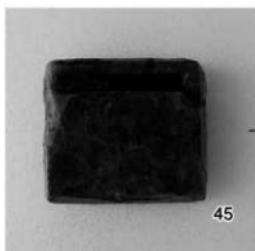
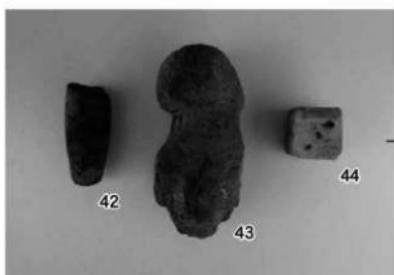
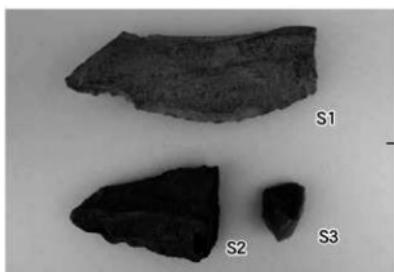
掘立柱建物

図版14

矢口遺跡







铁淬

2020年3月31日 印刷
2020年3月31日 発行

前田遺跡 矢口遺跡
福崎町埋蔵文化財調査報告 19

編集・発行 福崎町教育委員会
兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1

印刷 クリヤ印刷所